資料第　7　号

教育推進部真砂中央図書館

文京区立図書館の指定管理者の評価結果について

小石川図書館外８施設の令和７年度管理運営実績について、以下のとおり評価を実施した。

1　管理運営施設及び指定管理者

管理運営施設	指定管理者
小石川図書館、本駒込図書館、目白台図書館、湯島図書館、大塚公園みどりの図書室	株式会社図書館流通センター
本郷図書館、水道端図書館、千石図書館、根津図書室	ヴィアックス・紀伊國屋書店共同事業体

2　評価の経過

教育推進部に設置した「文京区立図書館指定管理者評価検討会」（以下、「評価検討会」という。）において、令和８年７月に評価（一次評価）を行った。

3　評価結果

裏面のとおり

指定管理者		株式会社 図書館流通センター		ヴィアックス・紀伊國屋書店 共同事業体	
評価主体		評価検討会 （一次評価）		評価検討会 （一次評価）	
分野評価	サービス向上の有効性	【配点 32 点】	２４点 C	【配点 32 点】	２４点 C
	経費の効率性	【配点 8 点】	６点 C	【配点 8 点】	６点 C
	管理運営の適正性	【配点 36 点】	２７点 C	【配点 36 点】	２７点 C
	業務の改善性	－	－ －	－	－ －
総合評価		【配点 76 点】	５７点 （７５．０％） C	【配点 76 点】	５７点 （７５．０％） C

《分野評価及び総合評価の見方》

評 価	評価内容及び基準	
A	特に優れている。	（合計得点が、配点の９０％以上）
B	優れている。	（合計得点が、配点の８０％以上９０％未満）
C	おおむね適正である。	（合計得点が、配点の６０％以上８０％未満）
D	改善が必要である。	（合計得点が、配点の４０％以上６０％未満）
E	相当な改善が必要である。	（合計得点が、配点の４０％未満）

なお、詳細は別紙のとおり。

小石川図書館外４施設
指定管理者の管理運営に対する評価報告書
【令和７年度実績】

令和８年７月

文京区立図書館指定管理者評価検討会

所管課	教育推進部真砂中央図書館
評価対象期間	令和７年４月１日　～　令和８年３月３１日 （指定期間５年中の１年目）

1　指定管理の概要

施設名称	①小石川図書館②本駒込図書館③目白台図書館④湯島図書館⑤大塚公園みどりの図書室
施設の設置目的	図書館法（昭和二十五年法律第百十八号）第１条の規定に基づき、教育と文化の発展に寄与するため、文京区立図書館を設置する。
指定管理者名称	株式会社図書館流通センター
指定期間	令和７年４月１日～令和１２年３月３１日
公募・非公募の別	公募
管理業務内容	(1)　図書館資料、視聴覚資料等（以下「図書館資料」という。）の収集、整理及び保存 (2)　図書館資料の館内及び館外利用 (3)　読書案内及び読書相談 (4)　読書会、講演会、研究会、鑑賞会、映写会等の開催及び奨励 (5)　その他館の目的達成のために必要な事業
利用料金制の有無	無

2　収支状況

（1）指定管理料及び利用料金

年度			R7	R8	R9	R10	R11
収入	指定管理料		521,703,166				
	コピー料金		587,790				
	電話料金		6,590				
	インターネットプリント料金		18,910				
	合計（A）		522,316,456	0	0	0	0
支出	科目	内訳					
	人件費	常勤職員給与	261,131,616				
		非常勤職員給与	53,310,018				
		法定福利費	49,443,149				
	旅費	旅費	821,922				
	資料費	新聞購入費	2,206,820				
	需用費	消耗品費	6,730,596				
		備品購入費	142,230				
		リース料	4,331,621				
	通信関係費等	通信費・電信料	2,518,103				
		郵送料	125,570				
		役務費	495,824				
		手数料	2,377				
		保険料	6,800				
	光熱水費	電気料金	6,332,019				
		ガス料金	3,156,004				
		水道料金	756,857				
	事業費	企画事業費	3,950,114				
	維持管理費	設備管理保守委託	30,177,400				
		警備	327,861				
		ごみ処理	1,575,319				
		建物修繕	932,800				
		備品修繕	0				
	本社経費	人件費					
		本社　総務・経理等人件費	28,988,562				
		本社　支援要員人件費	0				
		本社　福利厚生費	1,044,632				
		販売費・一般管理費					
		本社　通信関係費	6,058,870				
		本社　広告宣伝費	4,857,543				
		本社　研修費	0				
		本社　情報処理費用	0				
		本社　旅費交通費	2,245,961				
		本社　物品関係費	26,115,822				
		本社　租税公課・保険料	23,801,298				
	合計（B）		521,587,708	0	0	0	0
収支（A）－（B）			728,748	0	0	0	0

【特記事項】
・本施設は図書館法第17条の規定により、利用料金制をとっていない。

（2）自主事業（指定管理者の費用と責任で実施する事業）

年度		R7	R8	R9	R10	R11
収入						
	合計（A）	0	0	0	0	0
支出						
	合計（B）	0	0	0	0	0
収支（A）－（B）		0	0	0	0	0

【特記事項】

3　評価検討会委員

	役職	委員名
1	座長	教育推進部長　吉田　雄大
2	副座長	教育推進部真砂中央図書館長　奥田　光広
3	委員	教育推進部教育総務課長　真下　聡
4	委員	教育推進部教育指導課長　山岸　健
5	委員	小澤　玲子　（図書館利用者）
6	委員	三浦　武裕　（図書館利用者）

4　評価の対象とした資料

	評価の対象とした資料名	評価項目番号
1	文京区立図書館業務要求水準書	①③④⑤⑥⑦⑧⑨⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲
2	基本協定書・年度協定書	①③⑤⑧⑪⑭⑮⑯⑰⑱
3	令和７年度事業計画書	①③④⑥⑦⑧⑨⑫⑬⑭⑯⑰⑱⑲
4	令和７年度事業報告書	①⑦⑨⑫
5	令和７年度利用者アンケート実施結果	①③⑤
6	広報物	①④
7	意見・要望等とその対応	①③⑥
8	経費節減、効率的な予算執行等及び省エネ等の取組み	①⑧⑨⑲
9	指定管理者事業収支決算書	①⑧⑨⑲
10	金銭出納簿	⑪
11	備品台帳・備品購入一覧	①⑮
12	修繕または施設の改修一覧	①⑨⑭
13	日常清掃等記録	①⑭
14	職員研修計画及び実施結果	①⑥⑬⑯⑱
15	個人情報保護及び情報公開に関する規程	①⑯⑰
16	危機管理に関するマニュアル等	①⑯⑱
17	モニタリング実施結果	①④⑦⑭⑯

5　評価結果

（1）分野評価

評価分野	評価得点	評価項目	配点	評価	得点
サービス向上の有効性【配点32点】	C 24点	①　協定書、業務要求水準書等で区が求めた事業が適切に実施されたか。	4	3	3
		②　区が求めた事業以外に、住民サービスの向上を図るための自主事業が積極的に計画され、事業計画書や企画提案書に沿って適切に実施しているか。	—	—	—
		③　利用者懇談会や利用者アンケートにより、利用者の意見を収集し、適当な意見については、それを反映させた取組が行われたか。	4	3	3
		④　区民や利用者への広報方法を工夫し、効果的な広報活動が行われたか。	4	3	3
		⑤　利用者アンケート等の結果で、利用者から高い評価を得られているか。	8	3	6
		⑥　利用者からの苦情に対する対応と報告が適切に行われたか。	4	3	3
		⑦　利用者数、稼働率等の実績が、当該指定期間開始前と比べて同程度か。	8	3	6
	【評価理由】 ①行事については要求水準を満たし特に児童向けの行事については水準を大幅に上回った。今後は大人向けの行事の拡大にも期待したい。ただし貸出数については休館日を考慮しても若干前年を下回った。そのような状況下でも小石川図書館における視聴覚資料の貸出数が前年を上回ったことは取り組みの成果が表れた事として特筆に値する。また、休館中の本駒込図書館について、もう少し自発的な取り組みが望まれる。スケールメリットを生かし取り組まれたい。アンケートについては⑤に記載した。 ③利用者懇談会や利用者アンケートで得られた意見について、利用者の意見を収集し、課題や要望がよく分析されている。今後は意見要望のより一層の具体化及び区への協議等を積極的に推進されたい。 ④文京スポーツパークや目白台運動公園での広報の取り組み、リーフレットのポスティング等積極的な広報活動が行われた。また地域活動センターLINEでも発信されSNSの活用も推進されている。今後は広報の効果の分析を報告されることを期待したい。 ⑤「おおいに満足」「満足」の値が、運営サービスの総合満足度で95.7％と高い評価を得たが、施設・設備の総合満足度が84.9％とやや低調であった。運営・サービスについては引き続き満足度の向上に向け取り組まれたい。また、施設・設備については、本駒込図書館の改修や施設の老朽化等止むを得ない事情があったとはいえ、すべての館で「満足」の値が「おおいに満足」の値を大幅に上回ってしまっている。今後の改善に期待する。 ⑥説明を尽くさず、「検討する」との回答で済ませている事例が散見される。 返却処理漏れの指摘があるも、同様のミスが続いた。「基本動作研修の実施」と回答しているが、動作の確認だけでなく、個々の業務の意味や重要性が理解されているかが問われる。 教育委員会への報告は速やかに行われている。 ⑦新規の利用登録者数は前年度を上回っているが、貸出数は減少しており、一人当たりの貸出数が減少していることを示唆している。貸出数の向上に向けPR等に工夫をしていただきたい。また、全館（室）ともに特集展示に積極的に取り組んでいる。 学校支援業務は成果が上がっている。			
経費の効率性【配点8点】	C 6点	⑧　経費節減への具体的な取組を行い、その効果があったか。	4	3	3
		⑨　指定管理料の範囲内で効果的・効率的な予算執行が行われたか。	4	3	3
		⑩　収入を増加するための具体的な取組を行い、その効果があったか。	—	—	—
	【評価理由】 ⑧光熱水費については、年間を通じた省エネルギーや節電の取組みにより、経費節減の努力がされている。 ⑨効率的な事業企画や施設改修等に取り組んだ結果、収支計画内で実施できた。				

評価分野	評価得点	評価項目	配点	評価	得点
管理運営の適正性【配点36点】	C 27点	⑪　金銭の管理が適正に行われたか。	4	3	3
		⑫　サービスを低下させない適切な人員配置が行われたか。	4	3	3
		⑬　職員の知識・技術向上を図るための研修等が適切に行われたか。	4	3	3
		⑭　利用者が安全・快適に施設を利用できるよう適切に施設の保守、修繕、清掃等が行われたか。	4	3	3
		⑮　備品台帳により、備品の管理が適切に行われたか。	4	3	3
		⑯　個人情報の保護に関する法律の規定を遵守し、利用者の個人情報の適正な管理のために必要な措置が講じられ、漏えい、滅失、毀損等の事故が起きていないか。	4	3	3
		⑰　文京区情報公開条例の趣旨にのっとり、情報の公開を行うための必要な措置が講じられ、請求または区から情報提供の求めがあった場合は適切で速やかな対応が行われたか。	4	3	3
		⑱　事故、災害等の緊急事態が発生した場合の危機管理体制が適切であり、緊急事態が発生した場合は、その対応が適切であったか。	4	3	3
		⑲　省エネやごみの削減など環境に配慮した取組が積極的に行われたか。	4	3	3
	【評価理由】 ⑪複写料金等の現金収納業務について、手順書を整備し、適正な管理が行われている。 ⑫司書資格者率は70.9%、常勤職員率は73.3%、図書館業務経験者率は93.9%と、いずれも全従事者の５割を上回り、区の求める水準を超えている。退職者は年間7名で定着率は94.0%である。 ⑬多種多様な研修を行い職員スキルの向上に努めている。 ⑭消防設備の不具合交換や空調機器故障対応など、利用者が安全快適に利用できるよう施設整備に取り組んでいる。 ⑮区からの貸与備品及び指定管理者購入の備品はそれぞれの備品台帳により適切に管理している。 ⑯個人情報保護の規程を整備し、研修を定期的に実施しており、個人情報漏洩等の事故は発生していない。 ⑰区の情報公開条例に則った規程を整備し、情報公開請求に対し適切に対応した。 ⑱危機管理のマニュアルや職員の研修体制が整備され、適切に行われている。 ⑲地球温暖化対策として省エネルギーや廃棄物の抑制に努めている。また、環境問題やＳＤＧｓに関する特集展示による啓発も行われている。			
業務の改善性【配点0点】	― ―	⑳　前回の評価（一次評価及び二次評価）を受けて、適切な改善が図られたか。	―	―	―
	《前年度総合評価における改善すべき事項》 【評価理由】				

（2）総合評価

評 価	C	得 点	57点 / 76点

【所見】

民間事業者のノウハウや司書の専門性を生かし、各館地域の特性に合わせた事業の実施や様々なテーマの特集展示など、多彩な取り組みは好評を得ていると評価できる。文京スポーツパークでの図書館資料の展示のほか、地元ゆかりの文豪に焦点をあてた講演会や、地域施設と連携した企画など、文京区の地域資源を生かした取り組みは、地域の身近な学習拠点や情報発信拠点としての役割を果たしている。

利用実績は、令和６年度と比較してほぼ同等であるが、貸出数が減少している。新規の登録者は増加していることから、一人当たりの貸出数が減少していると考えられる。

また、老朽化した施設が多い中でも、清掃や保守点検を適切に行い、施設の不具合時には迅速に修繕するなどして対応をしている。

業務要求水準書や事業計画に示したものは概ね適切に実施されており、特に利用者アンケートの運営・サービスの総合的な満足度は、95.7％と高い評価を得た。一方、施設・設備の総合満足度は84.9％とやや低調であった。

人員配置においては、司書、常勤の正規職員、図書館経験者の確保について、業務要求水準書で示された割合を上回り、職員定着率は、94.0％となっている。さらに、多様なメニューによる研修体制により、職員の知識や技術の向上を図っている。

【改善すべき事項】

《評価結果の見方》

（1）分野評価

評価項目ごとに４段階評価を行い、その結果に応じた乗率を各評価項目の配点に乗じて採点し、各評価分野の合計得点を５段階評価します。

① ４段階評価・乗率

評　価	評価内容及び基準	乗　率
４：優良	協定書、業務要求水準書等で区が求めた水準を超える成果がある。	100%
３：適当	協定書、業務要求水準書等で区が求めた水準を満たしている。	75%
２：課題あり	協定書、業務要求水準書等で区が求めた水準を満たしているが、一部に課題がある。	50%
１：要改善	協定書、業務要求水準書等の水準を満たしておらず、改善が必要である。	0%

② ５段階評価

評　価	評価内容及び基準
A	当該分野について、特に優れている。 （分野の合計得点が、配点の９０％以上）
B	当該分野について、優れている。 （分野の合計得点が、配点の８０％以上９０％未満）
C	当該分野について、おおむね適正である。 （分野の合計得点が、配点の６０％以上８０％未満）
D	当該分野について、改善が必要である。 （分野の合計得点が、配点の４０％以上６０％未満）
E	当該分野について、相当な改善が必要である。 （分野の合計得点が、配点の４０％未満）

（2）総合評価

各評価分野の得点を合計し、その合計得点を５段階評価します。

評　価	評価内容及び基準
A	総合評価の結果、特に優れている。 （合計得点が、配点の９０％以上）
B	総合評価の結果、優れている。 （合計得点が、配点の８０％以上９０％未満）
C	総合評価の結果、おおむね適正である。 （合計得点が、配点の６０％以上８０％未満）
D	総合評価の結果、改善が必要である。 （合計得点が、配点の４０％以上６０％未満）
E	総合評価の結果、相当な改善が必要である。 （合計得点が、配点の４０％未満）

本郷図書館外３施設
指定管理者の管理運営に対する評価報告書
【令和７年度実績】

令和８年７月

文京区立図書館指定管理者評価検討会

所管課	教育推進部真砂中央図書館
評価対象期間	令和７年４月１日　～　令和８年３月３１日 （指定期間５年中の１年目）

1　指定管理の概要

施設名称	①本郷図書館②水道端図書館③千石図書館④根津図書室
施設の設置目的	図書館法（昭和二十五年法律第百十八号）第１条の規定に基づき、教育と文化の発展に寄与するため、文京区立図書館を設置する。
指定管理者名称	ヴィアックス・紀伊國屋書店共同事業体
指定期間	令和７年４月１日～令和１２年３月３１日
公募・非公募の別	公募
管理業務内容	(1)　図書館資料、視聴覚資料等（以下「図書館資料」という。）の収集、整理及び保存 (2)　図書館資料の館内及び館外利用 (3)　読書案内及び読書相談 (4)　読書会、講演会、研究会、鑑賞会、映写会等の開催及び奨励 (5)　その他館の目的達成のために必要な事業
利用料金制の有無	無

2　収支状況

（1）指定管理料及び利用料金

年度			R7	R8	R9	R10	R11
収入	指定管理料		433,894,000				
	コピー料金		454,860				
	電話料金		2,230				
	インターネットプリント料金		3,710				
	合計（A）		434,354,800	0	0	0	0
支出	科目	内訳					
	人件費	常勤職員給与	184,650,292				
		非常勤職員給与	64,625,777				
		法定福利費	26,339,773				
	旅費	旅費交通費	438,703				
	需用費	消耗品費	4,807,269				
		備品購入費	74,030				
		リース料	3,752,419				
	通信関係費等	通信費・電信料	1,807,300				
		郵送料	70,043				
		役務費	0				
		手数料	121,670				
		保険料	156,710				
	光熱水費	電気料金	5,564,061				
		ガス料金	0				
		水道料金	440,009				
	事業費	企画事業費	3,625,827				
	資料費	新聞図書費	1,982,150				
	維持管理費	設備管理業務	31,226,793				
		清掃管理業務	18,055,187				
		ごみ処理	1,165,274				
		建物修繕	1,655,700				
		備品修繕	0				
	本社経費	人件費					
		本社　総務・経理等人件費	40,264,331				
		本社　支援要員人件費	0				
		本社　福利厚生費	1,245,542				
		販売費・一般管理費					
		本社　通信関係費	3,472,066				
		本社　広告宣伝費	1,475,658				
		本社　研修費	209,338				
		本社　情報処理費用	287,009				
		本社　旅費交通費	1,934,554				
		本社　物品関係費	2,070,794				
		本社　租税公課・保険料	32,836,521				
	合計（B）		434,354,800	0	0	0	0
収支（A）－（B）			0	0	0	0	0

【特記事項】
・本施設は図書館法第17条の規定により、利用料金制をとっていない。

（２）自主事業（指定管理者の費用と責任で実施する事業）

	年度	R7	R8	R9	R10	R11
収入						
	合計（A）	0	0	0	0	0
支出						
	合計（B）	0	0	0	0	0
収支（A）－（B）		0	0	0	0	0
【特記事項】						

３　評価検討会委員

	役職	委員名
1	座長	教育推進部長　　吉田　雄大
2	副座長	教育推進部真砂中央図書館長　　奥田　光広
3	委員	教育推進部教育総務課長　　真下　聡
4	委員	教育推進部教育指導課長　　山岸　健
5	委員	小澤　玲子　　（図書館利用者）
6	委員	三浦　武裕　　（図書館利用者）

4　評価の対象とした資料

	評価の対象とした資料名	評価項目番号
1	文京区立図書館業務要求水準書	①③④⑤⑥⑦⑧⑨⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲
2	基本協定書・年度協定書	①③⑤⑧⑪⑭⑮⑯⑰⑱
3	令和７年度事業計画書	①③④⑥⑦⑧⑨⑫⑬⑭⑯⑰⑱⑲
4	令和７年度事業報告書	①⑦⑨⑫
5	令和７年度利用者アンケート実施結果	①③⑤
6	広報物	①④
7	意見・要望等とその対応	①③⑥
8	経費節減、効率的な予算執行等及び省エネ等の取組み	①⑧⑨⑲
9	指定管理者事業収支決算書	①⑧⑨⑲
10	金銭出納簿	⑪
11	備品台帳・備品購入一覧	①⑮
12	修繕または施設の改修一覧	①⑨⑭
13	日常清掃等記録	①⑭
14	職員研修計画及び実施結果	①⑥⑬⑯⑱
15	個人情報保護及び情報公開に関する規程	①⑯⑰
16	危機管理に関するマニュアル等	①⑯⑱
17	モニタリング実施結果	①④⑦⑭⑯

5　評価結果

（1）分野評価

評価分野	評価得点	評価項目	配点	評価	得点
サービス向上の有効性【配点32点】	C 24点	①　協定書、業務要求水準書等で区が求めた事業が適切に実施されたか。	4	3	3
		②　区が求めた事業以外に、住民サービスの向上を図るための自主事業が積極的に計画され、事業計画書や企画提案書に沿って適切に実施しているか。	—	—	—
		③　利用者懇談会や利用者アンケートにより、利用者の意見を収集し、適当な意見については、それを反映させた取組が行われたか。	4	3	3
		④　区民や利用者への広報方法を工夫し、効果的な広報活動が行われたか。	4	3	3
		⑤　利用者アンケート等の結果で、利用者から高い評価を得られているか。	8	3	6
		⑥　利用者からの苦情に対する対応と報告が適切に行われたか。	4	3	3
		⑦　利用者数、稼働率等の実績が、当該指定期間開始前と比べて同程度か。	8	3	6
	【評価理由】 ①地域活動センターやb-Lab等、区の他部署との連携事業をはじめ、多様な機関との連携事業を積極的に実施し、好評を得ている。また、事業実施回数も要求水準を上回っている。ただし、図書館システム入れ替えの休館の影響もあり図書館資料の貸出数が前年をやや下回ってしまった。次年度以降はセルフ化サービスの実施を契機により一層の対策を期待する。 アンケートについては⑤に記載した。 ③利用者アンケートや意見箱の設置により、利用者の意見を収集し、課題や要望がよく分析されている。今後は認識のとおり若年層の取り込み対策を講じられたい。 ④新たに区立図書館で開始したXでの広報において、フォロワー増加に向けた取り組みやフォロワー限定の企画の実施など創意工夫が感じられる。また、フォトスポットの設置や学校図書館での広報活動等こども向け対策も行われている。 ⑤利用者アンケートにおける「おおいに満足」「満足」の値が、運営サービスの総合満足度で96.9%、施設・設備の総合満足度で94.5%といずれも高い評価を得ている。ただし、施設・設備の総合満足度においてはすべての館において「満足」の値の方が高い。今後の改善策を期待する。 ⑥利用者からの意見に対し、効果的な対策を直ぐに講じるなど、適切な対応がみられる一方、接遇面で意見をいただく事例が散見される。利用者に対し正確に物事を伝えることは必要だが、その言葉遣いや表情等も重要である。今後指導されたい。 ⑦新規の利用登録者数は前年度を上回っているが、貸出数は減少しており、一人当たりの貸出数が減少していることを示唆している。貸出数の向上に向けPR等に工夫をしていただきたい。ただ団体に対する貸出は伸びているので、学校等との連携強化が図られている。			
経費の効率性【配点8点】	C 6点	⑧　経費節減への具体的な取組を行い、その効果があったか。	4	3	3
		⑨　指定管理料の範囲内で効果的・効率的な予算執行が行われたか。	4	3	3
		⑩　収入を増加するための具体的な取組を行い、その効果があったか。	—	—	—
	【評価理由】 ⑧各館での備品の共有や共同購入等により、経費削減への取組みがされている。空調機器や照明機器の稼働調整により省エネルギー対応にも取り組んでいる。 ⑨全体では効率的な運営が図れたが、積極的な取組みにより企画事業や施設維持管理等の事務費が計画を上回った。			

評価分野	評価得点	評価項目	配点	評価	得点
管理運営の適正性【配点36点】	C 27点	⑪　金銭の管理が適正に行われたか。	4	3	3
		⑫　サービスを低下させない適切な人員配置が行われたか。	4	3	3
		⑬　職員の知識・技術向上を図るための研修等が適切に行われたか。	4	3	3
		⑭　利用者が安全・快適に施設を利用できるよう適切に施設の保守、修繕、清掃等が行われたか。	4	3	3
		⑮　備品台帳により、備品の管理が適切に行われたか。	4	3	3
		⑯　個人情報の保護に関する法律の規定を遵守し、利用者の個人情報の適正な管理のために必要な措置が講じられ、漏えい、滅失、毀損等の事故が起きていないか。	4	3	3
		⑰　文京区情報公開条例の趣旨にのっとり、情報の公開を行うための必要な措置が講じられ、請求または区から情報提供の求めがあった場合は適切で速やかな対応が行われたか。	4	3	3
		⑱　事故、災害等の緊急事態が発生した場合の危機管理体制が適切であり、緊急事態が発生した場合は、その対応が適切であったか。	4	3	3
		⑲　省エネやごみの削減など環境に配慮した取組が積極的に行われたか。	4	3	3
	【評価理由】 ⑪複写料金等の現金収納業務について、手順書を整備し、適正な管理が行われている。 ⑫司書資格者73.2%、常勤職員55.5%、図書館業務経験者87.3%と、区の求める水準である全従事者の５割を上回っている。退職者は年間16名で定着率は86.2%である。 ⑬図書館業務に必要な基礎知識の習得と実務に直結するスキルの向上を柱として職員を育成している。オンラインを主体とした研修では、受講後に館内で内容を共有する取組を行うことで理解の底上げが図られている。 ⑭トイレやセルフ化に伴うカウンター改修など、利用者が安全快適に利用できるよう施設整備に取り組んでいる。 ⑮区からの貸与備品及び指定管理者購入の備品はそれぞれの備品台帳により適切に管理している。 ⑯個人情報保護の規程を整備し、研修を定期的に実施しており、個人情報漏洩等の事故は発生していない。 ⑰区の情報公開条例に則った規程を整備し、情報公開請求に対し適切に対応した。 ⑱危機管理のマニュアルや職員の研修体制が整備され、適切に行われている。 ⑲用紙の再利用、電気使用量削減、自転車の活用など環境に配慮した取組みを実施している。			
業務の改善性【配点0点】	― ―	⑳　前回の評価（一次評価及び二次評価）を受けて、適切な改善が図られたか。	―	―	―
	《前年度総合評価における改善すべき事項》 【評価理由】				

（2）総合評価

評 価	C	得 点	57点 / 76点

【所見】

民間事業者のノウハウや司書の専門性を生かし、各館地域の特性に合わせた事業の実施や様々なテーマの特集展示など、多彩な取り組みは好評を得ていると評価できる。特に特集展示に力を入れており、どの館も年間120テーマ以上実施するほか、特集の貸出数などの分析を行い、次の展示につなげるなど工夫を凝らしている。

児童向けには、夏休み期間中にワークショップを開催するなど、調べ学習の支援に力を入れているほか、学校図書館支援業務においては、学期末に特別貸出として貸出冊数の上限を引き上げる対応を行ったり、「よんでみましょう」冊子の展示を行い公共図書館の活用を促すなど、読書環境の確保にも取り組んでいる。

利用実績は、令和６年度と比較してほぼ同等であるが、貸出数が減少している。新規の登録者は増加していることから、一人当たりの貸出数が減少していると考えられる。

人員配置においては、司書、常勤の正規職員、図書館経験者の確保について、業務要求水準書で示された割合を上回っており、職員定着率は86.2％となり、安定的な図書館運営ができる体制となっている。

【改善すべき事項】

《評価結果の見方》

（1）分野評価

評価項目ごとに４段階評価を行い、その結果に応じた乗率を各評価項目の配点に乗じて採点し、各評価分野の合計得点を５段階評価します。

① ４段階評価・乗率

評　価	評価内容及び基準	乗　率
４：優良	協定書、業務要求水準書等で区が求めた水準を超える成果がある。	100%
３：適当	協定書、業務要求水準書等で区が求めた水準を満たしている。	75%
２：課題あり	協定書、業務要求水準書等で区が求めた水準を満たしているが、一部に課題がある。	50%
１：要改善	協定書、業務要求水準書等の水準を満たしておらず、改善が必要である。	0%

② ５段階評価

評　価	評価内容及び基準
A	当該分野について、特に優れている。 （分野の合計得点が、配点の９０％以上）
B	当該分野について、優れている。 （分野の合計得点が、配点の８０％以上９０％未満）
C	当該分野について、おおむね適正である。 （分野の合計得点が、配点の６０％以上８０％未満）
D	当該分野について、改善が必要である。 （分野の合計得点が、配点の４０％以上６０％未満）
E	当該分野について、相当な改善が必要である。 （分野の合計得点が、配点の４０％未満）

（2）総合評価

各評価分野の得点を合計し、その合計得点を５段階評価します。

評　価	評価内容及び基準
A	総合評価の結果、特に優れている。 （合計得点が、配点の９０％以上）
B	総合評価の結果、優れている。 （合計得点が、配点の８０％以上９０％未満）
C	総合評価の結果、おおむね適正である。 （合計得点が、配点の６０％以上８０％未満）
D	総合評価の結果、改善が必要である。 （合計得点が、配点の４０％以上６０％未満）
E	総合評価の結果、相当な改善が必要である。 （合計得点が、配点の４０％未満）